

# 神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報



2017年  
5月号

発行所  
神戸教区事務所  
TEL 078(351)5469  
FAX 078(382)1095  
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者  
司祭 芳我秀一

印刷所  
文明堂印刷所

## 「主教座空位」

〜 The Vacancy of the Apostolic See 〜

司祭 マルコ 藤井尚人



日まで、脈々と引き継がれていきます。その目に見える証しが「歴史的な主教職」です。

### アラタメテ、教会法 〜日本聖公会法憲法規〜

御承知のように、神戸教区は2回の臨時教区会を開催し、次期主教を選出するための選挙を行いました。教区内で次期主教を選出することはできませんでした。

「過半数じゃ、だめだったんですか」という質問には「法規にありますが、主教選挙規則では聖職・信徒同時に3分の2以上の支持がないとだめなんです」という答えが正解となります。つまり、聖職もしくは信徒の3分の1(全体から見ると6分の1)

の賛同が得られない場合、何度繰り返しても当選者は得られないのです。

日本聖公会のこの主教選挙規則について、意見は分かれるところに「※2」という法憲法規の解説書には、その規則の精神について「新主教にとって、少なくとも就任時に聖職・信徒の3分の2以上の支持が確認できることは大きなメリットです」と記されています。

2回の教区会を経ても当選者が得られない時は、いつまでも当該教区で選挙を続行せず、その主教選挙の権利は管区総会に移る、という規則の理由についても「教区を分裂に追い込むかわからないような禍根の危険を避ける牧会的配慮であり」、あるいは、退職主教・退職司祭が、教会、教区、管区の公職に就けないという規則に禁止している

「院政」を禁止しているからです」という日本史の授業を思い出すような解説を讀むにつれ、不勉強な私にとって、この度の主教選挙は、教会法に秘められている先人たちの智慧を、しみじみ、学ぶことのできる機会にもなりました。

### 良い主教 悪い主教

若い方は御存知ないかもしれませんが、神戸教区のおじいちゃんと呼ばれた覚前信三という老司祭がおられました。ある時、当時、神学生だった私をつかまえて、何気なく、こんなお話しをして下さいました。「主教さんに、良いも悪いもないんだよ。みんなが支えれば、良い主教になり、みんなが足を引っ張れば、悪い主教になる。それだけのこと」。このシンプルな教えは、牧師、園長、担任の先生、職場の上司、町内会長、はては、宴会の幹事に至るまで、すべてのリーダーとメンバーの関係に当てはまります。大切なことは、自分の思いではなく、神が、どうして、その人をリーダーとしてお選びになったか、ということを祈り求めること、ただ、それだけです。

葉は、捕囚の地にいる神の民イサエルに対しての厳しい警告です。昔を懐かしむという、そのこと自体が悪いのではありません。問題は、過去に囚われ続けることで、いつしか「今のこの辛い現実、もう神の御業は働いていないのだ」という不信仰の罪を犯してしまうことです。だから、イザヤの預言はこう続きます。

「見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている。あなたたちはそれを悟らな

いのか」

6月17日(土)、東京で開催される日本聖公会臨時総会(神戸教区主教選挙)の上に、神からのサプライズ(※3)を、祈りのうちに待ち望みましょう。それは、神戸教区の新しい聖霊降臨〜ペンテコステ。

初めからのことを、思い出すな。昔のことを、思いめぐらすな。

【イザヤ書43章18節】  
イザヤが預言したこの神の言

(※1) 「聖公会が大切にしてきたもの」  
(著)西原藤太聖公会出版2006  
(※2) 「司牧のよりどころ」  
(著)飯田徳昭聖公会出版1996  
(※3) 「SUR(上からの)PRISE(引き)」  
SURPRISE・サプライズ(驚き)

(戸)聖ヨハネ教会牧師・  
神戸松蔭女子学院大学  
チャプレン)

# 中村豊主教・定年退職！ 13年間、ありがとうございました!!



## 中村主教様の 13年間の功績

中村主教は就任以来、多くの働きをされ、神戸教区に多くの良いものを残されました。

信徒の高齢化と減少傾向、教会財政逼迫と困難な時期に教区主教の任に就かれ、多くの課題を抱えながら、教会のあるべき姿、宣教、キリストをこの世に、殊に日本においてどう証しして行くべきかを命題に掲げてその働きを始められました。信徒と聖職の協働による宣教協議会を開催し、各伝道区、教会における宣教プラン策定の勧めをされ、信徒

に対し教会活動への参加を促されました。

働き人の発掘に力を注がれ、多くの教役者が教区に与えられることとなりました。大聖堂参事会を始め、教区組織の改革と活性化を行い、併せて各委員会への女性信徒を多く登用し、教会活動への男女共同参画の形を作られました。倉敷伝道所の開設、岡山、



(神戸教区・宣教協議会)

徳山教会の牧師館・会館新築、広瀬の礼拝堂新築などを力強く督励され、大聖堂の耐震化を含む改修、ステンドグラスの設置、さらに待望のパイプオルガンの設置などハード面の充実をも行われました。

広島平和礼拝を教区礼拝として充実、松陰、八代学院やとの関係・連携の深化、ミカエル国際学校の自立などなど、実に多くの活動をされました。中村主教の多くのお働きに対し心から感謝しつつ、主教の残してくださった数多くのものが神戸教区の財産として次の時代への宣教活動の糧として用いられることを切に願うものです。

(神戸昇天教会信徒 宮永好章)

## 13年の意味

2004年に神戸教区第七代主教に着座してから13年の歳月が過ぎ3月で定年退職しました。あつという間の13年でしたが、この数字は私個人にとって象徴的な数字なのです。明石の教会から神戸聖ミカエル教会に転勤してきた父は、私が



(倉敷聖クリストファー教会聖別式)

の神の召しを痛感しました。幸いにも、私の在任中、多くの教役者が与えられました。一方、高齢の信徒の方々が次々の天に召され、教区・教会財政は非常に厳しい状態が続いております。しかし、経済的に苦しくても、人材は宝です。次期主教のもと、信徒と教役者が協力し、虚心坦懐に宣教活動に邁進すれば「光り輝く明けの明星」が神戸教区の皆様の心の中に昇るときが必ずくることを確信します。

(主教 中村 豊)



(中村主教・主教按手式)

高校2年の1963年、妻と9人の子どもを遺して57歳の生涯を終え、一足早く逝ってしまいました。兄弟9人のうち7名は学生・生徒で、母が家計を支えるために仕事に出ることは物理的に不可能な状態に陥ったのです。そのようなとき、救済の手を差し伸べてくださったのが八代斌助主教をはじめとするミカエル教会の関係者でした。さっそく中村家救済資金が設置されて多くの信徒が献金してくださり、おかげで一家は離散を免れました。主教に選ばれたとき、父が亡くなったときの恩返しに加えて、父が定年までやり残した13年分まで働く必要があると

# 新司祭・新執事

# 誕生!!



去る3月25日(土)に、神戸聖ミカエル大聖堂において司祭・執事按手式が中村豊主教司式のもと執り行われました。神戸教区に新しく2名の司祭、1名の執事が誕生しました。

## 司祭按手を受けて

神様の赦しと恵み、多くの方々の祈りによって、司祭按手を受ける事が出来ました。たくさんのお恵みを本当に感謝いたします。

志願を出してから按手まで、心の中をルカ福音書にある放蕩息子のたとえ話が巡っていました。私は本当は何者か。弟の様に自らをしっかりと振り返る事が出来ているか。お父さんにごめんないかと告白するように、自らの至らない点を神様にさらけ出し赦しを求めているか。兄のように自分の価値判断に固執し

ていないか。横柄な態度になつていないか、なつていないか。この物語の示す神様の愛を本当に感じているか。神様の愛を本当は理解していないのではないかと等々。放蕩息子のたとえ話の兄弟の姿と、今の自分の姿が度々重なりました。そしてついには、司祭となる事によって執事職が持つていた「仕える」「奉仕する」気持ちも失っていかないか。偉そうに振る舞うようにならないか、自問自答しておりませんでした。

その様な思いに対して、神様はいくつか道を示して下さいました。一つはリトリートの際、神に仕える行き方を今までよりもっと求めなさい、という御言葉。もう一つは、按手式で全司祭に手を置かれる出来事です。ご存じだと思えますが、按手の際には、司祭団に受け入れられる意味から、主教様だけでなく全司祭が按手に加わります。実際に全司祭が手を置いたときの重さは想像を超えるものでした。これは偉そうにせず、むしろ謙虚に神様に仕える続ける気持ちをお忘れないようにする心への「重し」だなと感じました。そして、その重さの中に神様の深い愛を少し感じる事ができました。

これからも、たとえ話の兄弟のように、神様の前から逃げ出したり、自分は間違っていないと横柄になつたりする場面があるかと思えます。そうなるでも神様の愛の下にすぐに戻るように、そして神様に仕え続けるように努力したいと思つていきますし、皆様と共に仕える道を歩んで行けたらと思つていきます。これからもうよろしくお願ひいたします。

## 愛すること

司祭 坪井 智  
松蔭中学高校チャプレン

神様のお赦しと皆様のお祈りによりまして、司祭に按手されましたことを、この場を借りて感謝申し上げます。

司祭に按手される前、改めて過去の自分を振り返ってみました。執事としての務めを果たせているのか。神様を信じる人間として生きていたのか。第三者から見れば、これまでの私は司祭になるに相応しくないとと思われることをしていたのかもしれない。しかし、そんな自分が司祭になる、という神様の不思議な導きが目の前にあるのだ、と思うようになりました。また、司祭になると言うことは聖餐式、洗礼式、赦罪の執行だけではなく「すべての人を分け隔てなく愛し、仕えなければなりません(祈禱書455頁)」。分け隔てなく愛するということとは、神様の言葉が人間となったイエス様がこの世に

された場所で生活を送る方々と同じ目線で、同じ生活習慣を送ることで仕えていくことだろうと思うようになりました。それは自分の過去の経験や信じる正義と違うことがあつたときに、自分を押し通すことではなく神様が望むことを行うようにならなければならぬ。そして、自分が生活をする場所でイエス様がおられることを証しするために、聖餐式というイエス様の生涯を記念するドラマを執り行っていく。それが司祭になつた私の務めだと思つていきます。また、この様に努めていくことで教区の、教会の。そして、神様のご用のために働いていく所存です。

## 執事職に召されて

司祭 浪花朋久  
浜田基督教会副牧師

これからも、よろしくお願ひ致します。

神さまのお導きによって、この度執事職に按手していただきました。皆さまのこれまでの祈りとお支えに感謝いたします。

執事 遠藤洋介  
広島復活教会牧師補

教会建築シリーズ⑥

広瀬キリスト教会編



「主教様の退職までには」との思いから始まった建築計画は、3月12日(日)大齋節第2主日、中村神戸教区主教様の司式による聖別式を迎えることができました。当日は教区・伝道区内の聖職信徒だけでなく、地元の方々も出席してくださいました。100名近い方がお祝い駆け付けてくださいました。また、同日は杉野達也司祭のご子息・心人(きよと)くんの洗礼式もあり、



新しい礼拝堂にふさわしく、キリストの家族が新たに与えられ、大きな喜びが重なりました。

広瀬キリスト教会は、現在堅信受領者3名で教会の建替え工事を実行するなど、難しいと思われましたが、信仰を守り続けてこられた吉村ご夫妻の長年にわたる神様への祈りが豊かに実ったことを出席された誰もが感じました。また、教会建築では、地域にこだわる地元の関係者の篤い思いも込められており、「たたら製鉄の安来」、「木材の広瀬町」にふさわしい新礼拝堂がランドマークとして期待されています。事実、多くの地

域の方が、建築献金に協力してくださいましたことはその証しです。

今後は、教会ロビーに絵画を展示するなど、重荷を負って教会を訪れた方々が、安らぐことのできる場所を設けて誰もが祈り、癒される教会とすることを目指します。また、伝道区内の教会と協働して宣教活動をより活発にしてゆきたいと願っています。

\*四月一日より広瀬町「尼子ひな祭」に米子・境教会の有志が参加してくださいました。

(広瀬キリスト教会 管理牧師 司祭 瀬山会治)

フィリピン ワークキャンプ

2月20日(月)〜27日(月)までの8日間、フィリピン・ワークキャンプに参加しました。

場所は昨年同様パラレという村で、神戸教区から4名、九州教区から3名が参加し、協力し合いながらワークに取り組みました。

今年の活動内容は、昨年

に引き続き教会の敷地を囲むフェンスの作成や、現地の小学校、中学校を訪問し、日本語や日本文化の紹介、また現地での生活を体験しました。途中、メンバーの中には炎天下のワークにより熱中症になったり、言語の壁を痛感し不甲斐なさから涙を流す人もいましたが、メンバーや教会の方々の支えもあり、無事に全日程を終えることができました。



また、現地の方々やホームステイ先のご家族も非常に親切で、不安そうに過ごす私たちに明るく接してくださり、心温まるもてなしに大変感銘を受けました。

加えて、現地の子ども達は目をキラキラと輝かせながら数少ないおもちゃで遊んでいます。たとえ、どんなに貧しい生活にあっても、心のゆとりを忘れず、楽しく生き生きと暮らしている現地の人々を見ると、私はフィリピンの人々から元気を貰い、勇気が湧いてきました。フィリピン・ワークキャンプを通して、恵まれた日本では見過ごされていた、人の温かさを感じ、人としての優しさを気づかされました。ワークキャンプで得た、学びや考えを忘れない、心に留めながらこれからの日々を送りたいと思います。



(姫路顕栄教会 芳我直美)

### 第53回 中高生大会 春の準備会

3月31日(金)～4月1日(土)まで、8月15日(火)から18日(金)に行われる第54回中高生大会の準備会を、大会の会場である兵庫県佐用郡にある南光自然観察村で行いました。この施設は、広い敷地で山に囲まれ静かな所です。コテージなどとても綺麗でお風呂やトイレも綺麗でとても過ごしやすいです。



プログラムは、ウォークラリーや運動会、キャンプファイヤーに肝試しなどとても楽しいものばかりです。どのプログラムにも楽しさがあり皆さんをハッピーに

すること間違いありません。

ハッピーと言えば今年の大会テーマは「ハッピーターン」です。参加したみんなが幸せになってまた中高生大会に戻って来て欲しいという思いでつけました。中高生大会は、沢山の人と出会え、楽しいプログラムがあり、とても濃い3泊4日を過ごすことが出来ます。4日目になると「帰りたくない」とか「すぐにでも中高生大会に戻りたい」と思ってしまうくらいです。私は、初参加の時に緊張や不安がありました。周りがみんなが優しくしてくれると同時に面白くなり、すぐ打ち解けることが出来ました。最初の緊張や不安が何処に行ったのか、今では中高生大会がとても楽しみで夏が待ち遠しいほどです。中高生大会の楽しさや面白さは、参加しないと絶対分かりません！

役員一同みんなが幸せになるように頑張って準備しています。夏に思い出深い3泊4日を過ごしませんか？南光自然観察村で役員一同待っています！皆、是非

来てね!!

(姫路顕栄教会 田村亜子)

### 第54回中高生大会

日時	2017年 8月15日(火)～18日(金)
会場	南光自然観察村 (兵庫県佐用郡)
大会長	林 真里奈 (姫路顕栄教会)
対象年齢	小学4年生～高校3年生まで。
テーマ	ハッピー・ターン

### 青年交流会 in 神戸

3月30日(木)～31日(金)に神戸聖ミカエル教会で新年青年歓迎会として青年交流会が行われ、新青年3人を含む11人が参加しました。



1日目は、青年会についての説明と昨年度の活動報告を受け、その後聖書研究をしました。聖書研究では復活日の聖書箇所「ヨハネによる福音書第20章1節から18節」をテーマとし、疑問に感じたところや驚いたところ、光を感じたところなどを1人ずつ挙げていき、共有しました。聖書を読んだ感じたことを言葉にして話すのは初めてだったのでとても有意義な時間となりました。夕食では、3つのチームに分かれて鍋の具材をドラフトし、それぞれのチームで鍋を作っていました。沢山喋ってみんなと笑い合うことができ、良き交流の場となりました。



2日目は、信仰生活の中の「出会い」についてディスカッションをしました。「中高生大会に参加して教会の友達が増やして、初めて教会に行く意味を知った」「学校で辛いことがあったときに教会の人が励ましてくれて、教会での出会いは幸せなことであると気付いた」など、みんなの思いを分かち合うことができました。そして私たちは1つ1つの出会いに感謝しなければならぬと改めて感じました。プログラムの最後に、全国青年大会とU26(ユーロ)についての説明を受け、今年度の活動について意見を出し合いました。今年度は、他教区の青年との集いもより一層大切にし、輪を広げていこうと決めました。また、青年が集う機会をもっと増やして、様々な活動を行いたいと考えています。

これからも青年の活動を覚え、見守っていただくようお願い致します。

(神戸聖ミカエル教会 笹 緋奈)

鳩だより 《敬称略》

祝 洗 礼

3月5日(日) モニカ 大内 由美子  
 アウグステイヌス 大内 将義  
 広島復活教会

3月12日(日) クリストファー 杉野 心人  
 松江基督教会

4月2日(日) オーエン 國 弘 学  
 モニカ 宗 兼 美 保  
 神戸聖ペテロ教会

祝 堅 信

3月5日(日) モニカ 大内 由美子  
 アウグステイヌス 大内 将義  
 広島復活教会

3月19日(日) クリストファー 森 政博

フランチェスコ 松島 弘和  
 クララ 松島 ひとみ  
 垂水伝道所

ご 逝 去

3月26日(日) ナオミ 嶋本 直美  
 神戸聖ミカエル教会

教 籍 移 動

3月18日(土) ペテロ 中村 眞一郎  
 セシリア 中村 慶子  
 クリストファー 中村 有作  
 東北教区大館 聖パウロ教会から  
 神戸聖ミカエル教会へ

4月1日(土) ヨハネ 井上裕一朗  
 徳島インマヌエル教会から  
 高松聖ヤコブ教会へ

垂水伝道所へ

神戸国際大学附属 高等学校 硬式野球部

3月19日から阪神甲子園球場で行われた第89回選抜高等学校

野球大会(春の甲子園)で、神戸国際大学附属高等学校は大会第5日目に東海大学附属福岡高等学校と対戦し、惜しくも1対2で敗れてしまいました。神戸国際大学附属高等学校野球部へのこれまでのご声援、ありがとうございました。(浪花 記)

皆様のご声援とご加棒に心より御礼申し上げます。本校野球部員たちは、夏の大会に向けて日々猛練習を重ねています。これからも教区の皆様の応援をよろしくお願い致します。(神戸国際大学附属高等学校 学校長 内尾 徹)



6月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2017年6月1日(木) 午前10:30  
 場所 神戸聖ミカエル大聖堂  
 司式 主教 磯 晴久  
 説教 司祭 河村 博之

\* 6月の記念逝去教役者

8日	司祭	チャールズ	ワレン	久
13日	司祭	ダニエル	植村	信
13日	司祭	ヘンリー	ピー	ト
13日	伝道師	マリア	鈴木	嵯峨
19日	伝道師	ヨハネ	伊木	久次郎
19日	司祭	ダビデ	横田	豊
20日	司祭		牧岡	鉄弥
20日	司祭	トマス	角瀬	史和
20日	主教	テトス	中道	淑夫
22日	司祭	施洗者ヨハネ	佐々木	崇
23日	司祭	マタイ	覚前	信三
29日	主教		横田	道信

公 示

救主降生2017年3月28日  
 日本聖公会 首座主教 ナタナエル 植松 誠

日本聖公会神戸教区、教区主教アンデレ中村 豊 師父の定年退職にともない、下記の通り管理主教を委託いたします。

記

日本聖公会法規第10条第1項により、日本聖公会大阪教区主教 アンデレ 磯晴久師父に、日本聖公会神戸教区の管理主教を委託する。

任期は、2017年4月1日より、次期神戸教区主教就任の日までとする。

以上

公 示

司祭 セバスチャン 浪花 朋久  
 2017年3月25日付  
 浜田基督教会副牧師に任命する。

執事 テモテ 遠藤 洋介  
 2017年3月25日付  
 広島復活教会牧師補に任命する。

主教 アンデレ 中村 豊  
 2017年3月31日付  
 定年により退職とする。

執事 リチャード池澤隆輝  
 2017年3月31日付  
 願いにより退職とする。

以上